

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

松山市立伊台小学校 教諭 三浦 智子

1 単元名 「人にやさしく～やってみよう！伊台のバリアフリーすごいもの博～」

2 単元の目標

福祉体験学習を通して、障がいのある方や高齢者のくらしを支援する取組や方法を理解し、身近な環境の「当たり前」を疑い、誰もが過ごしやすい環境について考えたり、自分にできることを考えたりするとともに、バリアフリーを自分事として捉え、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元について

(1) 教材観

福祉とは、「しあわせ・幸福」である。福祉教育とは、地域の人々との関わりを通して福祉課題を学び、解決策を考え、行動する力を育む教育である。福祉は持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。障がいの有無に関わらず、誰もが暮らしやすい社会を探究し、その実現を目指すための資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。

(2) 児童観

本校は市内の山間部に位置し、豊かな自然と多くの緑に囲まれた地域にある。野菜や果樹を生産する農家が多く、伊台高原ぶどうは地域の特産品で、学校でも栽培・収穫を行っている。町内会や自治会が活発に活動しており、地域での行事や催しが盛んである。

本校は一昨年度、校舎の建て替え工事を終え、昨年度から新築の校舎となった。児童は快適な学校生活を送ることができている。校舎にはエレベーターが設置されたり、段差のない玄関やスロープの廊下などがあったりと、あらゆるところに旧校舎にはなかった設備が整った。災害時には避難場所に指定されていることもあり、まさに地域のための学校であると言える。

本学年の児童は、中学年までに町探検等の活動や果樹栽培を通して地域の人々とたくさん触れ合ってきている。しかし、高齢者施設で生活する人々や障がいがある人と接したり生活したりする経験はあまりなく、自分たちの住む町が誰もが住みやすい町だと言えるのかについては考えが及んでいない。児童たち自身も、坂道が多い地域の特性上、自動車での移動が多く、高齢者の方や障がいのある方の不便さには気付いていない。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず自分たちの身の回りに目を向け、さまざまな場合に存在する「バリア（障壁）」を見つける。次に、実際に車椅子で生活している方や目が不自由な方、介護に従事されている方に来校いただき、話を聞いたり体験したりすることで、より細かな「バリア」に気付かせ、生活上の課題を見つける目を養いたい。そこから、伊台の町や学校の中をよりバリアフリーな環境にするためにあったらいいと思う夢の機械や器具を考案する。児童思い思いの視点から

「バリアフリー」を想像させ、ICT機器を活用したり模型を作ったりしてプレゼンし、お話いただいた講師の方々の前で表現する場を設けたい。「もし自分や家族が〇〇だったら」と自分事として捉え、誰もが過ごしやすい社会を作ろうとする主体的な態度を養いたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 公平性・・・誰にでも快適で幸せに暮らす権利があり、それを実現することで持続可能な社会が作られる。
- 連携性・・・みんなが互いに協力し合い、力を合わせて社会の課題を解決していくことが大切である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

- クリティカル・シンキング・・・今ある環境の「当たり前」を疑い、よりよい社会について目を向ける。

・本学習で変容を促すESDの価値観

- 世代内の公正・人権の尊重・幸福感

障がいの有無や年齢に関わらず、みんなが安心して暮らせる環境があることが当たり前にならなければならない。

・達成が期待されるSDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 10 人や国の不平等をなくそう

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 身近な環境の中のバリアフリーに気付き、何のための工夫がなされているのかを理解している。 ② 障がいの有無に関わらず、誰もが過ごしやすい環境が必要であること、障がいをもつ人の生活や思い、必要な支援について理解している。	① 課題解決に向けて、適切な情報を集めたり、調べたことをまとめたり発表したりする方法を自分なりに考えている。 ② 障がいをもつ人の生活や思いを想像したり、必要な支援について考えたことを他者に伝えたりすることができる。	① バリアフリーを自分事と捉え、身近なところからたくさん見付けようとしている。 ② 福祉体験学習に進んで参加し、交流することを通して学習課題を見付けようとしている。 ③ バリアをなくすためにあったらよいと思う機械や器具を考え出し、進んで提案することでよりよい社会をつくっていこうとしている。

5 単元の指導計画（全 28 時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 「バリアフリー」とは何かを考えよう。（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーについての基本的な考え方を知る。 ・車椅子や松葉杖で生活している友達にインタビューをし、生の声を聴く。 			①	・ロイロ
2 学校の中のバリアフリーを調べよう。（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家、周辺施設でのバリアフリーを見付ける。 	①		①	・ロイロ
3 ゲストティーチャーからバリアフリーについて学ぼう。（8）	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを招き、話を聞いたり体験学習をしたりしてさまざまな「バリア」について知る。 ○ 松山市地域包括支援センター「高齢者体験」「介助体験」「高齢者の防災」「手話」 ○ 社会福祉施設 C I L 星空「車椅子体験」「車椅子の介助」「白杖体験」「盲導犬について」 	① ②		②	・発言 ・観察 ・ワークシート
4 「バリア」をなくすための方法を考えよう。（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習で学んだことを生かして、今の環境を見直し、達成したい「バリアフリー」を考え、共有し合う。 ・全国の小学生がどのような取組をしているのかを調べ、自分達にできそうなことについての見通しをもつ。 	②	①	③	・ワークシート ・発表
5 誰もが住みやすい町について考え、できることを実践しよう。（12）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や方法によりグループを作り、伝えたいことを焦点化してまとめる。 (1) バリアフリーの観点からあったらいいと思う機械や器具を考え、プレゼン大会「伊台のバリアフリーすごいもの博」を行う。この発明品をどうすれば実現させることができるか作戦を立てる。 (2) 学んだことを動画にまとめ、多くの人に見てもらう。 (3) 伊台の「〇〇ピック」を企画し、スポーツ大会を企画する。 		②	③	・ロイロ ・プレゼン ・発表

6 単元構想案

松山市立伊台小学校 5年 総合的な学習の時間「人にやさしく」

昨年度の5年生は、「伊台のバリアフリー」について学んだらしいよ。
そもそも、「バリアフリー」って何だろう。何のため？誰のため？

校舎が新しくなっ
て、前より使いやす
くなった所がたくさ
んあるよ。
・エレベーター
・段差のない玄関

伊台小は校舎が新
しくなったけど、
エレベーターがな
い学校はどうして
いるんだろう。

車椅子の友達
や、松葉杖を
使っている友
達が助かって
いるな。

近くのお店
や施設にあ
るのを見た
ことがある
よ。

みんなが、自分のしたいようにすごせるようにするためのものが、バリアフリー。
伊台小、伊台のまち、松山市のバリアフリーを探そう。

実際に使って
いる人に話を
聞いてみたい
な。

昨年お世話になっ
た、高齢者施設の
人たちにまた話を
聞きに行こう。

実際に車椅子
に乗って、苦
労を体験して
みたいな。

目や耳に障がい
のある方は、ど
のように生活し
ているのかな。

高齢者体験

車椅子体験

施設の方々との交流

みんな、いつかは年をと
る。困っていたら助け合
わないといけないな。

自分も家族も、怪我をして車椅
子に乗る時がくるかもしれ
ない。そうなったときも困ら
ないようにしたいな。

障がいがあっても買い物や
旅行に行きたい。自由に動
けるようなくみがあると
みんな便利になるな。

このまちをもっとバリアフリーにするために、自分たちに何ができるだろう。

地震や火事の時、す
ぐに避難できるように普段から経路を確
認しよう。
(ハザードマッ
プ作り)

この場所が、
もっと良くな
ればいいの
に。直してほ
しいな。

デフリンピック
もあったし、ス
ポーツやゲーム
で楽しく交流し
たいな。

外国から来た
方にとっても
すごしやすい
町になるとい
いな。

7 研究の実際

(小単元1) 「バリアフリー」とは何かを考えよう

4階建ての校舎の4階で過ごす5・6年生の児童の中に、怪我で松葉杖を使用する児童と、車椅子で過ごす児童がいた。その児童たちは校舎内を移動するのに、エレベーターを使っていた。そこで、まず新築の校舎で過ごしている自分達のような環境が、市・県内の学校、または学校以外の施設で当たり前ではないことに気付かせた。そこから、「エレベーターのない学校の子はどうしているのだろう。」「怪我をした子は、いつか治るかもしれない。でも、生まれつきの障がいのある子や、高齢になってからのことは、どうしたらいいのだろう。」という疑問が児童の中から浮かんだ。さらに、エレベーター以外の「バリアフリー」を探す中で、「じゃあ、足ではなく、目が不自由なら?」「耳なら?」と、関心が広がっていった。詳しく調べてみたいという思いを高めてから、活動を展開していった。最後に、実際に車椅子を使っていた6年生にインタビューをし、車椅子で生活するようになってから感じたことを聞くなどして実感を高めていった。



<インタビューの様子>



<車椅子で授業を受ける児童>

(小単元2) 学校の中のバリアフリーを調べよう

車椅子や松葉杖を使っている友達から聞いたことを基に、まずは学校内の設備でバリアフリーになっているところを探す活動を行った。前もって生の声を聞いていたこともあり、身近な環境の中のバリアフリーに気付き、何のための工夫がなされているのかを理解することができた。



<段差のない児童玄関>

(小単元3) ゲストティーチャーからバリアフリーについて学ぼう

次に、児童に「学校内だけでなく、町の中のバリアフリーを広く知っている方に話を聞こう。」と呼び掛けた。どんな話が聞きたいか候補を募り、そこから挙げた案を松山市社会福祉協議会の方々に相談し、協力していただいた。実際に学校で福祉体験学習を実施していただいたのは、車椅子体験、手話体験、白杖・盲導犬・ガイドヘルプ体験であった。学校に申し出があった社会地域連絡協議会の方による高齢者体験も実施した。実際に障がいをもっている方やその介護に従事されている方の生の

声を間近で聞くことで、誰もが過ごしやすい環境の必要性を深く感じ、障がいをもつ人の生活や思い、必要な支援について理解することができた。



<車椅子体験>



<手話体験>



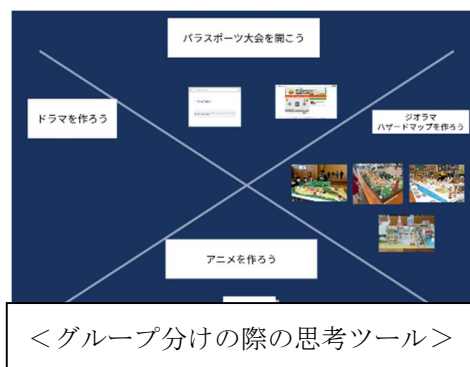
<白杖体験>



<高齢者体験>

(小単元4)「バリア」をなくすための方法を考えよう

体験学習で学んだことを生かしていこうという展開に進めていった。まず、今の環境を見直し、達成したい「バリアフリー」を考え、共有し合った。児童からは新聞やスライドなどの方法しか挙がらなかったため、全国の小学生がどのような取組をしているのかを調べさせ、自分たちにできそうなことについての見通しをもたせた後、やってみたいことの候補を出し合い、選ばせてグループを作った。



<グループ分けの際の思考ツール>

(小単元5) 誰もが住みやすい町について考え、できることを実践しよう

学年の教師が2人のため、2グループにまとめることとし、スポーツ大会チームと、アニメ・ドラマチームとに分けた。

スポーツ大会チームは、誰もが楽しめるスポーツにどのようなものがあるか調べ、学年でスポーツ大会を開くために話し合いを重ねている。ルールや器具などに着目し、特に器具はどこかの団体から借りることはできないか調べ、問い合わせているところである。

アニメ・ドラマチームは、まず全員にシナリオ案を考えさせ、オーディションを行った。伝えたいテーマがかぶらないように選んだ結果、四つの作品を作ることに決まった。台本を作り、配役を決めて撮影に取り掛かっているところである。



<話し合いをする児童>



<児童の作ったアニメの案>

グループでのまとめと並行して、個人の学習のまとめとして、国語科「生活をよりよくする提案」として提案文を書くこととした。その際、ガイドヘルプ体験の講師として来校していただいた障がい者福祉施設の方にアンケートをお願いし、「もっとこうなればよいと思う身の回りのこと」を挙げていただいた。児童らに、その内容と、新聞記事から探した近年の福祉関係者の発明品やアイデア作品、「ドラえもん」のみみつ道具などの資料を見せ、発想が浮かびにくい児童の助けとした。提案文は2月の参観日で、保護者の方々に聞いてもらう予定である。現在までに、ここまで取り組んでいる。

8 成果と課題

- 児童のワークシートや発表の声などから、ゲストティーチャーを招き、実体験や生の触れ合いを重視したことで、より課題を具体的に見出したり解決しようという思いを深めたりすることにつながった。
- 障がいや高齢など、児童の実態とは異なる境遇の方については、実際に介護従事者や施設スタッフなど、そばで支援する方々の生の声を聞いたことで、自分自身のことだけでなく「自分の家族がそうなったとき、どうするか」を考えることができた。
- 体験活動を行うごとにまとめと振り返りを行うのではなく、1年間を通して3学期にまとめを行うこととしたことで、児童の興味・関心の新鮮さが多少薄れてしまった。児童の意識の流れが自然に流れるよう、長期休みなどを挟まないうちにまとめを行っておくとよかった。
- 「すごいもの博」として発明品をたくさん考えてほしいという思いで指導案を作成したが、児童の発想を思ったより高めることができなかった。児童の実体験に基づくことから課題意識が高まっていくと感じた。ゲストティーチャーと触れ合ったときにその場でアイデアを募るなど、タイミングと単元構成に検討が必要である。

現在の学年終了時に目指す姿

相手の身になって考えようとする思いやりの気持ちを育てるとともに、周囲の人や障がいのある人々と進んでかかわりあおうとする意欲や態度を育てる。



自分たちにもできることがある。

社会科「わたしたちの生活と工業生産」
社会の変化に対応しながら、生産者や消費者などの立場から多角的に考えることで、これからの工業生産について考えるとともに、資源の確保や環境にも配慮しながら持続可能な生産活動をする必要があることを捉える。

さまざまなニーズに合った工業製品が開発されているんだ。

社会科「情報を生かす産業」
暮らしを支える身近な情報活用を手がかりにして、店などでどのように情報が活用されていることかを考える。また、このような情報活用が、わたしたちの生活に大きく貢献していることに気付く。

総合的な学習の時間
「人にやさしく～やってみよう！伊台のバリアフリーすごいもの博～」
○主に養いたいESDの資質・能力
クリティカル・シンキング
今ある環境の「当たり前」を疑い、誰にとってもよりよい社会について考え、解決策を考へたり行動に移したりすることができる。
○主に育てたいESDの価値観
世代内の公正・人権の尊重・幸福感
障がいの有無や年齢に関わらず、みんなが安心して暮らせる環境があることが当たり前にならなければならない。

道徳科「わたしのボランティア体験」
社会に奉仕する喜びを知り、その意義を理解し、公共のために役立とうとする態度を養う。

保健体育科「けがの防止」
交通事故をふせぐためのバリアフリーが整えられている環境の大切さに気付き、その工夫が安全に行動するためにどのように役立っているのかを考える。

私たちの町のいろいろなところに工夫があるな。

外国語科「I can draw pictures well.」
相手のことをよく知るために、できること、できないことについて、具体的な情報を聞き取ったり、短い話を聞いて概要を捉えたり、自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分の考えや気持ちなどを含めて話したり、例文を参考に書いたりすることができる。
「My hero」
得意なことやできること、人柄などについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。

国語科「生活をよりよくする提案」
読み手に提案の必要性を理解してもらえるように表現する。
その提案を実行することで、どんなよさが生まれるのか読む人に伝わるように具体的に書く。

こんな製品があったら、もっと多くの人便利になる！

6年生家庭科
「共に生きる地域での生活」
家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることがわかり、地域の人々との協力が大切であることがわかる。また、地域の人々とのよりよい関わりをつくるために地域の一員として自分にできる取り組みを考え、工夫し続けることができる。